

---

# とある紅蘭の娯楽小説(entertainment° °))

紅蘭

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある紅蘭の娯楽小説（entertainment。）（）

### 【Nコード】

N7231Q

### 【作者名】

紅蘭

### 【あらすじ】

パターン・アゴ！猪木です！！ 必ず注意書を読み、その上で小説を閲覧しましょうね キラッ

## 注意書

どーも、紅蘭です。

まず始めに一つ……すんませんしたあ!!!

「とある科学の共鳴波動の執筆も滞ってんのに何してんだテメエ……ああ!？」ってなるのはわかります!

だけど娯楽が欲しかったんす(´; ;´)

「字数少ないしもうちょい練るか……」とかストーリーとかキャラの性格とか全て何も考えずにハチャメチャなモノを書いてみたかつたんす!(; ;)

ハアハア……シツレイ、取り乱シまみタ。

今小説は作者の完全な息抜き用小説であり、独善的であり、独裁的であり、独吟的な小説です。

感想、評価など気にせずただひたすらにゴーイングマイウェイします。

それでもいいなら読むがいいさっ(。 。 ) 何様w

草も生やすし顔文字もAAも使います。

元ネタの説明や用語の説明?なにそれおいしいの?

下手すりゃ一話が1000文字程度です。

気まぐれで削除するかもしれません。

台本形式で対話のみ描写無しで一話なんて当たり前です。

この小説の中ではねっ!!!

苦情は受け付け無いぜベイビー……忠告はしたハズだ……。

んじゃ、作者の自己満で支離滅裂な覇茶夢茶ハチャメチャすぎる話すたーとうっ  
！！

## 注意書（後書き）

次話 が あらわれた！  
どうしますか？

たたかう                      魔法

焼き払う                      作者を殴る

ソツと画面を閉じて明日を見つめる

らららららら、さんばりとうないっ！！

読む                      ?む                      黄泉む                      ナパーム

まおう「さあ                      どれかを                      えらぶのだ                      ゆっしやよ！」

かずらじっ！（前書き）

モノの30分で書き上げてしまった……なんだこの書きやすさw

かずらじっ！

紅蘭「かずらじっ！」

佐天「かずらじー！」

和磨「かずらじ……」

「「かずらじっ！……」」

紅蘭「はい、始めましたよー。第一回のお時間かまちです。」

和磨「とりあえず、紅蘭。この茶番がなんなのかを説明してもらおうか……」

紅蘭「はいな、涙子ちゃん。」

佐天「はいはい！この企画はですねー、とある科学の超電磁砲二次創作小説《とある科学の共鳴波動》の主人公、《下貴和磨》のラジオという体で進める、作者の思い付きだそうですー。」

紅蘭「ちょw最後の方いらないからwwwスタッフもんなことまでカンペに書くなバーローw」

和磨「まあ企画についてはわかったが、一体何をするんだ？」

紅蘭「それについてなんだけどー、やっぱラジオと銘打ったからにはさ、ゲストとか呼んじやったりして？色々ダベったり読者様から

の質問に答えたりしようかなーと。」

佐天「でも、紅蘭さん。ラジオって初回はゲストいませんよね？  
読者さんの質問って言うても今までの感想への返信で答えちゃっ  
てるし。」

紅蘭「はいな、いいところに気がついたね。

涙子ちゃんの言う通り、今回はゲストはいませんし、質問もありま  
せーん。

まあゲストについては作者権限と言うある意味世界の強制力で無理  
やり召喚してもいいんだけど……」

和磨「だけど？」

紅蘭「やっぱラジオって言ったからにはラジオっぱくいきたい！！」

和磨「ただのアホか……それも末期の。」

佐天「言いますねー、和磨さん。」

和磨「そういうキャラとして作ったのは紅蘭自身だろ？」

紅蘭「まあそうなんだけどねーw」

和磨「まったく……では、とりあえず企画の方行ってみようか。」

紅蘭「ノリノリやんけw」

和磨「やかましい。」

「紅蘭の、『バラしちまえっ！製作秘話！』」

紅蘭「はい、こちらはだね……初回限定の企画にしようと思ってるんだけど、オリキャラのモデルや設定についての裏話をガンガンにバラしちゃうかとw」

和磨「ってもオリキャラなんてまだ俺と久遠くらいしか居ないぞ？」

佐天「物語もまだ原作に沿って展開されてますしねー。」

紅蘭「多分今回限りの単発企画だからいいんだよw気にすんなっ！」

和磨「ホントに適当な奴だな……」

紅蘭「それはむしろ褒め言葉だぜっ キラッ」

佐天「うわっ……きつしょ……」

紅蘭「ゴメンナサイ、吊ッテキマス……」

和磨「佐天に言われた瞬間心が折れたな……このままじゃ企画が進まない……佐天、その彼氏の秘蔵の工本を見つけた時のような絶対零度の視線をやめてやれ。」

佐天「……はい。」

紅蘭「はっ！？俺は何を！？」

和磨「ちよつとした記憶障害だ、気にするな。わかったら早くその円く括られた縄を手放して台から降りろ。」

紅蘭「ういw」

和磨「よし、じゃあ企画の本題に入るとするか……まずは、主人公である俺の製作に関する話を聞こう。」

紅蘭「はいな、《共鳴波動》を書き出す前の話なんだけど、元々和磨くんは主役じゃなかったんだな。」

佐天「えっ!？」

紅蘭「詳しく話すと本編のネタバレになっちゃうから伏せるけど、虚空爆破事件の後に展開して行く予定のオリジナルストーリーの黒幕が主人公になるはずだったんだよねー。ちなみにその設定で進めてたら和磨くんは……」

和磨「（ゴクツ）お、俺は？」

紅蘭「成す術も無くボロボロにやられちゃう死に役でしたっ w」

和磨& a m p ;佐天「ぶっ!？」

紅蘭「まあ、結局はその設定の物語で進めちゃうと話の根底がダークになっちゃってさw 俺自身軽く鬱になるなと思ってボツったw」

和磨「……命拾いした。」

佐天「ですね……。」

紅蘭「なっはっはw 後ねー、見た目のモデルなんだけど、それは《ギャングキング》って言う俺の愛読書の主人公、ジミー君ですw」

和磨「ギャングキング？」

佐天「あー、知ってますよ私。典型的なヤンキー漫画とは一線を画す新しいタイプのヤンキー漫画ですよね？」

紅蘭「ざつつらいと！ 正にその通りだよー。この現代の不良達を描いた漫画なんだけどね、近頃のヤンキー漫画に出てくる安いキャラじゃなく。本当の《漢》<sup>おとこ</sup>たちの物語だ！出てくる奴等も皆馬鹿で人間味があつてさ、何かしら共感できる所があるわけよ。しかしっ！その実彼らは自分自身の考えを持って、確固たる意思を持って過ごしている。まじ皆かつこよくて最高っ！」

和磨「盛り上がって居る所悪いが、主題からだいぶずれてるぞ？」

紅蘭「なんだよー、いいじゃんいいじゃん人が楽しく話してんだからさー。」

吉野「空気嫁」

和磨& a m p ;佐天「今の誰！？」<sup>だっ</sup>

紅蘭「あー、時期に出す予定の新キャラ君だね。うん」

和磨「……………フライングじゃないのか？」

紅蘭「まあ気にするな！気にしたら負けだ！！何につて？人生にだ

よっ！！」

佐天「はぁ……………もうやだこの作者。」

紅蘭「さーて、次行ってみよう！」

和磨「あ？ああ、では久遠についてなんだが…………」

紅蘭「犬」

和磨「はっ？」

紅蘭「だから、犬だってば。」

佐天「い、犬う！？」

紅蘭「そうだよーw 久遠ってのは幼馴染みが飼ってる犬の名前w  
ちなみにダックスフンドね。これがまた可愛いんだわー。」

和磨「久遠……………不憫な…………」

紅蘭「まあ確かに可哀想ではあるw 外見はその飼主である幼馴染  
そのまんまでーw 下の名前も幼馴染みの名前をまんま引用した  
ww」

佐天「最低だよコイツ……………」

紅蘭「なははははーwww」

和磨「つつたく…………」

佐天「あ、そういえば和磨さんの能力について『独創的なアイディアですね』などの感想を幾つか読者さんから頂いてるんですけど、それについては？」

紅蘭「あー、それね。実は……」

モデルがいます。」

和磨「なん……だと……」

佐天「そんな！？そんなことって！……」

紅蘭「ちょwお前ら落ち着けwww」

和磨「落ち着けるか馬鹿紅蘭！！元々死に役だった上に能力までパクリなんて……うう。」

佐天「ヒドいよ……ヒドすぎるよ……」

紅蘭「だから待てw落ち着けwwwモデルがいるとは言ったがパクリとは言ってないw」

「！？」」

紅蘭「音を使って戦うつてのには先駆者がいたが、能力については完璧なオリジナルだから安心せいw」

和磨「よ……よかった……」

紅蘭「ちなみにモデルは『烈火の炎』って言うバトル漫画の某音使  
いさんですw」

吉野「風子たんハアハア（´、`）」

佐天「うわあああああ！！キモッ！キモイイイ！！」

紅蘭「吉野落ち着けwとりま、気になる方は烈火の炎読んでみて  
くださーいw能力がオリジナルなのは証明されるはずだからw」

和磨「ふう……なんかドツと疲れた……」

佐天「私もです……」

紅蘭「おっつーwww」

和磨& a m p・佐天「お前のせいだあああああああ！！」

紅蘭「ちよつ、まつ……」

ぎゃあああああああああ！?!?!

第一回『かずらじっ！』END

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7231q/>

---

とある紅蘭の娯楽小説(entertainment° °))

2011年10月7日02時20分発行